



ゆりのきっ子

宇城市立松橋小学校
学校だより 第7号
令和7年11月5日
文責 岡村 誠也

【校訓】かしこく（賢）なかよく（優）すこやかに（健）

【教育目標】「夢」実現のために「学び合い・支え合い・高め合う」児童の育成

【教育スローガン】ウェルビーイングな未来へ～夢いっぱい・笑顔いっぱい・元気いっぱい～



一人一人のがんばりで、記憶に残る運動会！

“一人一人のがんばりがみんなの笑顔に 最後まできょうりょくしあう運動会！”のテーマの下、10月25日（土）の運動会では、一人一人が一生懸命頑張るカッコイイ姿がたくさん見られました。吉田体育主任からの“そろえる”をキーワードに、残暑がまだまだ厳しい中、本番まで練習を頑張ってきました。全体練習がある日も雨に降られることなく、本番当日も絶好のグラウンドコンディションで運動会を行うことができました。

当日も、早朝からたくさんの方に来場していただきました。たくさんの方々に見守られながら子供たちは練習の成果を発揮して、全力でひたむきに頑張る姿を見せてくれ、たくさんの感動をもらいました！

PTA役員さんをはじめ、保護者の皆様の御協力のおかげで、盛大な運動会が実施できました。学校運営協議会や民生委員の皆様方など、たくさんの地域の皆様方にも、最後まで応援していただきありがとうございました。



研究発表会

松橋小学校は、昨年度から文部科学省の「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」として、熊本県教育委員会指定で道徳教育の研究を行っています。研究主題を「ウェルビーイングを目指してよりよく生きようとするゆりのきっ子の育成」～自他の考えのよさに気付く道徳科の授業づくりを通して～と設定し、全職員で研究授業等を行いながら道徳教育の在り方について実践を行ってきました。

その研究発表会を11月14日（金）の午後から行います。現在のところ（11/4）県下各地から約150人程の先生方が研究発表会に参加される予定です。最近の学校での研究発表会では参加者が100名を超えることはあまりないのですが、松橋小学校の道徳教育の研究が期待されている証だとうれしく受け止めています。ただ、こんなに参加者が多いのは、これまでの松橋小学校の児童の皆さんのがんばりはもちろんですが、保護者の方々の御理解や地域の方々の継続した御支援のおかげでもあると理解しています。

発表会当日は、松橋小の子供たちの素晴らしい先生方の頑張りをしっかり見てもらいたいと考えています。きっと素晴らしい研究発表会になると信じています。

ほめる→善、叱る→悪？

最近は、ニュースや報道等で「パワハラやハラスマント」という言葉を聞くことがあります。学校でも、ややもするとほめる事だけが賞賛され、叱ることに苦情が来たりすることもあります。「ほめる」と「叱る」ことを水と油のように捉えることが正しいのでしょうか？私は、その両者を適度のバランスで両立させることが大切だと考えています。保護者の中にも「あの時先生から叱られたから成長することができた」という経験をされている方もおられると思います。あるいは「あの先生から理不尽に叱られたことは許せない」という経験をされた方もおられることでしょう。学校の教師も最近は叱ることを躊躇してしまうこともあります。

自分自身の経験を振り返ると、生徒指導の場面で「なぜこんなことをしたんだ」と大声で怒りながら原因を追究するなど、力づくの強制的な指導が多かったことを反省しています。「叱る」に似た言葉に「怒る」があります。「叱る」は「愛情」、「怒る」は「感情」などとも言われます。まさに自分は「怒る」ことが多かったと反省しています。

松橋小の先生方には「起きたことや過去は変えられない」ので「どうすればよかったのか」と子供にしっかりと考えさせるような指導をお願いしています。もちろん、生命の危険や心身の安全や人権を侵害する行為があったときは「怒る」ことも大切だと考えています。「ほめて育てる」を絶対視してしまうと、欲求承認を肥大化させた、ただのわがまま放題の子供を育ててしまう危険性もあると考えています。

学校も「ほめる」と「叱る」の両者のバランスを両立させることができるように努力していきたいと考えています。保護者の皆様にも御理解をしていただけたらと思います。